

1. 略歴

1985年3月	東京大学文学部中国哲学専修課程卒業（文学士）
1987年3月	同 大学院人文科学研究科修士課程修了（中国哲学）
1987年4月	東京大学東洋文化研究所助手（東アジア第一部門）
1992年4月	徳島大学総合科学部講師（総合科学科）
1994年4月	同 助教授（人間社会学科）
1996年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授（中国思想文化学）
2007年4月	同 准教授（中国思想文化学）
2013年4月	同 教授（中国思想文化学）

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国思想文化史、王権理論の展開および儒教の教化論

b 研究課題

- (1) 中国における朱子学・陽明学の思想的形成と社会的展開。
- (2) 中国皇帝制秩序を支える王権儀礼とその理論。
- (3) 日本における儒教思想の流入とその社会的効果。

c 概要と自己評価

概要：中国思想文化史研究として、宋代の儒教において生じた新たな思想潮流と、それが朱子学に集約していく様相を中心に研究してきた。また、その延長線上にいわゆる中世以降の日本における朱子学の受容と独自の展開についても扱い、特に王権論の観点から天皇制に関わる思想的・儀礼的事象を探究している。

自己評価：2016～2017年度は上記3つの研究課題の全体にわたり、出版の形で成果を公表することができた。まず、上記(1)(2)については、「宗教の世界史」というシリーズ企画の1冊として担当していた『儒教の歴史』を、依頼されてから10年がかりで擱筆・刊行した。また、(2)については「世界史叢書」に論文を寄稿していわゆる中華思想について通時的に概観した。(3)については、これも10年越しの企画だった東アジア王権論についての編著を完成させることができた。私生活上はいくつか問題が生じた2年間であったが、研究成果の発信という面では成果をあげることができたと考える。

d 主要業績

(1) 著書

- 単著、小島毅、『儒教の歴史』、山川出版社、2017.5
単著、小島毅、『儒教が支えた明治維新』、晶文社、2017.11
編著、小島毅他、『中世日本の王権と禅・宋学』、汲古書院、2018.3

(2) 論文

- 小島毅、「中華の歴史認識——春秋学を中心に」、秋田茂他編『「世界史」の世界史』、ミネルヴァ書房、36-53頁、2016.9
小島毅、「方法としての溝口雄三」、第八回日中学者中国古代史論壇論文集『中国史学の方法論』、285-290頁、2017.5
小島毅、「東アジア伝統思想の「尊厳」」、『思想』、no.1114、98-112頁、2017.2
小島毅、「中国の古地震記録について—サステナビリティ研究の視点から」、『文化交流研究』、30号、75-90頁、2017.3

(3) 解説

- 小島毅、「朱舜水先生終焉之地」碑の移転、『UP』、no.535、18-23頁、2017.5

(4) マスコミ

- 「偏ってる私が見た偏らない世界」、『朝日新聞 日曜版 8-9,11』、2016.4.3
「近代精神受け入れる土壌 特集：維新150年 第三部 幕末維新の思想・学問5」、『読売新聞』、2017.9.2
「歴史と共に移る解釈 専門家に聞く『論語』の歴史と読み方」、『東京大学新聞』、2017.12.5
「儒教」、J-WAVE：JAM THE WORLD のUP-CLOSE コーナー、2018.3.13

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本中国学会、副理事長、2015.4～

国内、日本儒教学会、理事（常務委員）、2016.5～

国内、中国社会文化学会、理事長、2017.7～